

認知症ケアチーム会の活動について

赤穂市民病院 医療課 医療計画係
松原 徳幸

(目的) 当院は急性期病院であり、術後せん妄のある患者さんや安静度を守る必要のある認知症患者さんの対応に苦慮するケースが多かった。認知症のある患者さんに対し、専門的知識を持った多職種が適切に対応することで認知症症状の悪化を防止し、治療の円滑化を図る目的で2020年4月より①.研修会の開催②.各病棟に9時間以上の認知症看護研修修了看護師の配置を行い、病棟での認知症ケアの拡充を図った。

(方法) 認知症又はせん妄症状等のある患者さんに対し入院時のアセスメントを行い、別途看護計画を作成、認知症ケアの充実に努めた。加えて、岡山大学リエゾンチームの取り組みを参考に、せん妄症状の悪化の原因が器質的要因、薬剤的要因、環境要因である事を周知した。また、せん妄症状の原因についても論理的にアセスメントできるよう委員出席看護師を中心に病棟単位で多職種を交えカンファレンスを行った。

(結果) 認知症患者さんに対し看護計画の作成が習慣化され、早期介入及びアセスメントが可能となった。その結果、病棟での認知症ケアについて、見当識障害に対するアプローチや患者さんの想いを汲み取り、看護師より主治医へ早期離床を打診する等の動きが活発となった。

(考察) 看護計画の立案や認知症研修修了看護師の配置を行った事が、認知症ケア体制の拡充と病棟カンファレンスの有効性を高めたと考える。

(結語) 認知症ケア介入の必要がある患者さんの早期発見、早期介入が可能となった。結果、認知症の進行予防及びせん妄症状の改善に繋がった。